



相澤 巧 議員
aizawa takumi

問 高校生まで医療費助成の拡大を

答 限られた財源 現状の中学生までの助成を継続 —— 町長

医療費助成の適用 拡大はできないか

当 町では、乳幼児等の医療費助成が乳幼児から中学生が対象となつていきます。それをもう一歩進め高校卒業まで医療費を助成すべきと考えます。子育て世帯を支援することは、町政にとつてもマインスになることではありません。町長の見解を伺います。

大森町長 平成24年度8月より乳幼児等医療費の助成対象を中学生まで引き上げ、入院・外来ともに一部負担金の全額助成を実施しています。このほか、ひとり親家庭等医療費の無料化や保育料の独自軽減、学校給食費の全額助成、指定校への通学支援など、子どもを安心して産み育てられる子育て支援を実施しています。

高校卒業までの医療費助成について

高校卒業までの医療費助成についても、庁舎内で議論しており、実現すべき課題であると認識しています。一方で限られた財源の中で優先順位を決めて子育て支援の充実に努めています。次年度からは新たに町営で学童保育の開設を進めていきますので、当面はそちらを優先し、現状の中学生までの助成を継続したいと考えています。

再質問 高校生は大切な成長期にあたり、病気・怪我等を我慢することなく、早期に治療を受けることが重要です。成長を促し健康であることは、将来的にも医療費抑制に繋がります。また全国的に見ても高校卒業までの医療費助成は、約17%程度の実施に留まっていますが、他町に先駆けて進めるべき施策と考えます。もう一度見解

を伺います。

大森町長 極めて重要な施策と考えていますが、財源の問題もあり、一つひとつ確実に進めるといふ観点から、子育て支援に関しては、新年度に実施する学童保育に資金を投入するとしていきますので、ご理解をお願いします。



中学校の校内陸上競技大会
スポーツなどの怪我や成長期の病気は早期治療が重要で